

1. はじめに

- 経済成長や巨大な消費市場など、アフリカ諸国ではビジネス機会が拡大
 - 一方、資源価格の急落や感染症やテロの発生等を受け、アフリカ事業を縮小、撤退、新規投資を控える事例も散見
- ⇒アフリカが持つ将来性と課題を冷静に見極める必要がある
※日本企業の活動を進める上で、平和と安定の確保は最優先の課題

2. TICAD V後の取り組みに対する評価

TICAD V後の取り組みについて、PDCAサイクルを効果的に回していく必要

- 日本政府の取り組みは全体として高く評価
例：戦略的マスタープランの形成、治安・感染症対策、産業人材の育成 等
- アフリカ自身の取り組みは十分進んでいない。進捗していない課題の解決が急務
例：インフラ整備、公的機関の能力強化、ビジネス環境整備、投資協定締結 等

3. 今後の対アフリカ戦略に関する考え方

(1) 援助と投資のバランスのとれた戦略の実行

- 中長期的には、豊富な資源や巨大な市場を背景に、「援助から投資へ」
- しかし、当面は「援助」と「投資」を車の両輪として進めることが必要
⇒ビジネス環境整備、インフラ整備、人材育成等の継続が不可欠

(2) 対アフリカ戦略の重点化

- TICAD Vの実施状況についてのPDCAを踏まえ、日本としての戦略的重点国や重点領域を定め、成果目標や工程表等の個別戦略を策定することが必要

4. 今後の課題

(1) 経済活動に資する援助

- 農業の大規模化と生産性の向上、加工・流通を含むフードバリューチェーンの構築、電力と水の安定供給、保健衛生の改善 等

(2) 官民連携による質の高いインフラ整備

- 産業基盤の形成に資するハードとソフトのインフラ整備を広域で戦略的に実施
- 戦略的マスタープランの早期実現とプラン間の有機的な連携

(3) ビジネス環境の整備

- 法制度整備、規制緩和・撤廃、公正競争確保、行政手続の簡素化・迅速化
- 二国間の官民政策対話の設置、租税条約や投資協定の早期締結、経済連携協定(EPA)の検討 等

(4) 持続可能な成長につながる人材育成

- ABEイニシアティブ、産業人材育成センターの継続と、行政官の育成強化